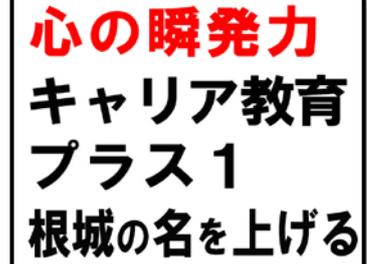


1 教育目標

全ての子どもが生き生きと元気に学びあう学校

- ・社会の一員として自立できる生徒 (自立)
- ・集団生活で連帯できる生徒 (連帯)
- ・社会に貢献できる生徒 (貢献)



2 努力目標(めざす生徒像)

- (1) 集団の向上を目指し、認め合い励まし合える生徒
- (2) 確かなめあてをもち、学び合い高め合える生徒
- (3) 夢をもち、最後まで決して諦めない生徒

3 学校目標

「何事にも意欲をもって取り組む生徒の育成」～キャリア教育の視点を生かして～

[重点施策]

- (1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身につける学校づくりを目指す。
「キャリア教育」の推進 「学習習慣」の確立 心(やる気)のスイッチを入れる工夫
- (2) 望ましい人間関係の構築を図る。
「安心できる雰囲気」の学級づくりの推進
- (3) 子ども一人ひとりが活躍する場・認められる場の充実を図る。
「自尊感情」や「自己有用感」の育成 リーダー性を経験する場の設定
- (4) 保護者や地域住民との協働に努める。
「地域に密着した取り組みの実践」 「情報の発信」

4 平成29年度の4つの実践

社会の一員として役割を果たすとともに、それぞれの持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力を身に付けさせる。

(1)一人一人の子どもに「確かな学力」を身につける学校づくりを目指す

①将来の夢や希望を持たせる**キャリア教育の視点に立った教育の推進**

- ㊦何事も、自ら進んで取り組むより積極的な心を育てるために、「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。

目標達成に向けて自ら進んで取り組む生徒の育成→校内研修での取り組み

- ①今取り組んでいることと将来の社会との関係を見出し、結びつけることにより自分が学んでいる理由や重要性を知ることを目指す。
- ②自分を知ることからはじめ、何に向いているのか、何を高める必要があるかを適性検査や面談等を通して一人一人に対してサポートする。また、それを支えるために必要な情報の提供に努める。

②授業改善による学力の向上→心(やる気)のスイッチを入れる工夫

↑②授業改善により学力の向上に努める→意欲的(自主的)に取り組むことを念頭に置き、授業がおもしろい・楽しい・不思議だという思いを持たせる授業の実践を通して、「学びたい」「もっと勉強したい」という気持ちを育てる。

↓①全職員が積極的に授業公開し、意欲を高める工夫に視点を当て、授業について学び合う土壌を育む。

③特別支援教育の充実＝ユニバーサルデザインの視点を通じた実践

特別支援学級はもちろんのこと、通常学級における特別支援(全生徒を意識して)に具体的な手立てを講じながら取り組むことによって生徒の意欲を高め、そのことにより学力向上を果たす。また、その成果が生徒の活動に見られる工夫をする。

④無理・無駄なく定着を図るための学習習慣の確立

→生活記録表の活用、短学活を利用した学習計画、学習の仕方説明会の実施

(2)望ましい人間関係の構築を図る

①ソーシャルスキルの実践

Q-U検査(並行してアセスの活用)を実施し、その結果を参照し、ソーシャルスキルトレーニングによって、人間社会のルール、上手な聴き方、上手な話し方、友達づくりのスキルを通してよりよい人間関係を築く方法を身につけさせる。

【心を耕すプロジェクト】

②安心できる学級づくり

傷つけられない安心感がある学級・認められたい欲求が満たされる学級・一体感が持てる学級づくりを推進する。

(3)子ども一人一人が活躍する場・認められる場の充実を図る

【心の瞬発力】

①学年・学級経営並びに学校行事において、「自尊感情」や「自己有用感」の育成に努める。

②行事などの取り組みの後に、お互いをたたえる機会の設定に努める。

③多くの生徒がリーダーを経験できるような機会や場面の設定に努める。

④生徒会活動の活性化を図る……全校一人ひとりの参画意識を高める工夫
生徒会役員のみならず、全校生徒一人ひとりが参画意識をもって取り組めるような日々の活動に重点を置いた企画・運営を実践する。

(4)保護者や地域住民との協働に努める＝根城の名を上げる

①保護者や地域住民に公開する授業や行事を工夫・実践する。

②地域の行事や活動に積極的に参加するとともに、地域へ貢献する。

→地域をよく知るとともに、地域の行事やイベント及びボランティア活動に積極的に参加することを推進し、地域の活性化の役割を果たしつつ社会への貢献の仕方を学習する機会とする。

③いつでも誰でも学校に足を運べるような雰囲気づくりと情報発信に努める。